（　　）組（　　）番　名前（　　）

／100点

一．傍線部を口語訳せよ。

1　秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる　（古今集）

〔　　〕

2　飛鳥川（あすかがは）にあらねば、淵瀬（ふちせ）さらにかはらざりけり。　（土佐日記）

〔　　〕

二．傍線部の助動詞の活用形を答えよ。

1　折にふれば、何かはあはれならざらん。　（徒然草）

〔　　〕

2　人、木石にあらざれば、みな、情（なさけ）あり。　（源氏物語）

〔　　〕

三．空欄に助動詞「ず」を活用させて入れよ。

1　かうて、つれづれとながむるに、などか物詣（まう）でもせ（　　）けむ。　（更級日記）

〔　　〕

2　九重（ここのへ）のうちに鳴か（　　）ぞいとわろき。　（枕草子）

〔　　〕

四．次の文より助動詞「ず」を抜き出せ。

1　年五十（いそぢ）になるまで上手に至らざらん芸をば捨つべきなり。　（徒然草）

〔　　〕

五．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア．完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形　イ．打消の助動詞「ず」の連体形　ウ．ナ変動詞の終止形活用語尾〉

1　華やかなりしあたりも人住まぬ野らとなり、変はらぬ住みかは人改まりぬ。　（徒然草）

a〔　　〕

b〔　　〕

六．傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。

〈ア．打消の助動詞「ず」の已然形　イ．完了の助動詞「ぬ」の命令形　ウ．願望の終助詞（奈良時代）　エ．動詞の活用語尾〉

1　さは早う都へ帰り給ひね。　（栄花物語）

〔　　〕

2　たとひことばにいでてこそ言はねども、　（徒然草）

〔　　〕

一.
1 見えないけれども
2 変わらないことだなあ

二.
1 未然形
2 已然形

三.
1 ざり
2 ぬ

四.
1 ざら

五.
1 a イ
b ア

六.
1 イ
2 ア